



図 8.4 紅色皮膚描記症 (dermographism)
人工的にこするなどの機械的刺激を与えた部に膨疹 (蕁麻疹) を生じる。

きない，いわゆる“蕁麻疹”をさす。症状の継続期間によって区別し，6週間未満で終息するものを急性蕁麻疹とし，6週間以上にわたるものを慢性蕁麻疹という（日本のガイドラインでは4週間で区別する）。急性蕁麻疹においては，詳細な問診をとると感冒や上気道感染の既往が判明することが多く，発症契機の一つとして重要である。多くの急性蕁麻疹は数日から数週で終息するが，一部は慢性蕁麻疹に移行する。慢性蕁麻疹の多くは原因不明であり〔慢性特発性蕁麻疹（chronic spontaneous urticaria；CSU）〕，10年以上遷延することも珍しくない。

2) 接触蕁麻疹 contact urticaria

皮膚あるいは粘膜に物質が接触して数分～数十分後に蕁麻疹を生じるもの。アレルギー性接触蕁麻疹と非アレルギー性接触蕁麻疹とに分類される。前者の代表としてラテックスアレルギーが，後者は昆虫アレルギーなどがあげられる（MEMO 参照）。

3) 物理性蕁麻疹 physical urticaria

物理的刺激（擦過，寒冷，日光，温熱など）によって生じる蕁麻疹をいう。おのおのの特徴を表 8.1 に示す。機械性蕁麻疹（人工蕁麻疹）では紅色皮膚描記症（図 8.4）が特徴。

表 8.1 物理性蕁麻疹の種類と特徴

--

4) コリン性蕁麻疹 cholinergic urticaria

運動や入浴、緊張などで体温が上昇し、発汗を起こすような状態に至った際に、直径3～5 mm程度の小さな膨疹が出現する（図 8.5）。発汗障害や後天性無汗症を伴うことがある。発汗をつかさどるアセチルコリンの関与が考えられているほか、自己汗成分に対する I 型アレルギーの関与も指摘されている。

2. 血管性浮腫 angioedema



同義語：クインケ浮腫（Quincke's edema）、血管神経性浮腫（angioneurotic edema）

Essence

- 血管透過性亢進による浮腫。真皮下層～皮下脂肪組織で生じた蕁麻疹。痒痒は通常ない。
- 病因が非遺伝性と遺伝性に分けられる。
- 口唇、眼瞼に好発。
- 非遺伝性のものは蕁麻疹の治療に準拠。

症状

限局性の浮腫が突然生じ、通常2～5日間持続する。大きさはさまざまで、ときに直径1～10 cm大を呈する。境界不明瞭で痒痒は通常伴わず、むしろ灼熱感を訴えることが多い。蕁麻疹と同様どこにでも出現するが、眼瞼、口唇、舌、手足に生じやすい（図 8.6）。通常の蕁麻疹を伴うこともある。ときに咽頭部、鼻腔粘膜、気管支粘膜、消化管粘膜などに浮腫を生じ、アナフィラキシーショックに陥ることがある。

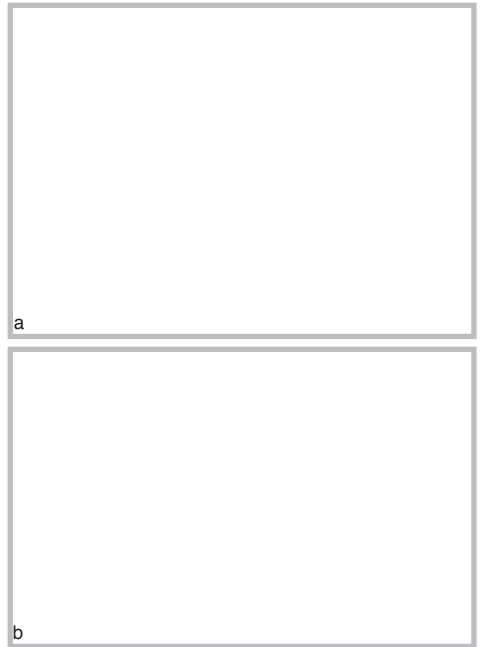


図 8.5 コリン性蕁麻疹（cholinergic urticaria）
a：数 mm～1 cm 大の軽度隆起性の膨疹を多発性に認める。b：発汗テストを行うと汗腺部に一致して皮膚疹とともに汗が出ていることが確認される。

遺伝性血管性浮腫の分類



好酸球増多を伴う血管性浮腫

